

1998-5

98文系基礎
理論社会学

マルクス主義 とは何か

1998.10.6-
橋爪大三郎

□0□ 自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授(社会学)。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション(全3巻)』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』(以上、講談社)、『崔健』『性愛論』(以上、岩波書店)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』(共著、径書房)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『大問題!』(幻冬舎)、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義2』(夏目書房)、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』(共著、富士通経営研修所)、『近代国家とオウム』(共著、南風社)、『新生日本』(共著、学習研究社)、『正義・戦争・国家論』(共著、径書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メトロ・近刊)ほか

§ 1 ガイダンス: マルクス主義はなぜ重要か?

1. 1 なぜ、いま、マルクス主義なのか?

- * 20世紀はマルクス主義の時代だった レーニンのロシア革命→ソ連→中国
冷戦の終結によって、マルクス主義は「時代遅れ」とされているが、そうか?
- * マルクス主義は、社会科学の最大・最高の「成功例」。 包括的、体系的
また、近代社会、資本主義社会、現代世界についてのまとまった見取り図を与える。
にもかかわらず、マルクス主義は正しく理解されておらず、継承されてもない。
たとえば、東工大に、マルクス主義の講義があるか? これでも大学か?

1. 2 社会主義 (socialism)/共産主義 (communism)/マルクス主義 (Marxism)

★Q1-1 上の三つの思想の、異同を簡単にのべよ。

☆今回の講義予定

10/7 ガイダンス	11/11 出張のため休講	1/13 ⑧
10/14 ①	11/18 ④	1/20 ⑨
10/21 ②	11/25 ⑤	1/27 期末試験
10/28 ③	12/2 ⑥	(授業時間に実施)
11/4 出張のため休講	12/9 ⑦	2/3 予備

☆配布するプリントの残部は、研究室ドア前の箱に置いておきます。各自揃えること。

☆自由聴講を歓迎します。座席に余裕がある限り、誰でも自由に聴講できます。

橋爪大三郎 研究室～西4号館603 ☎5734-2667 レポート提出先: 同館3階入口郵便受
E-mail hashizm@valdes.titech.ac.jp http://www.titech.ac.jp/~hashizm

社会主義……

共産主義……

マルクス主義……

1. 3 マルクス主義について、簡単にまとめてみよう

- ①マルクス主義は、historische Materialismus⁽¹⁾)にもとづき、人類の歴史は Klassenkampf⁽²⁾)の歴史であると考える。
- ②マルクス主義は、マルクスの著書“das Kapital”⁽³⁾)にもとづき、資本主義経済が労働の Exploitation⁽⁴⁾)とEntfremdung⁽⁵⁾)をもたらしと批判する。
- ③マルクス主義は、マルクス・エンゲルスの“das Kommunistische Manifest”⁽⁶⁾)にもとづき、共産党の指導のもと、全世界の Proletariat⁽⁷⁾)の団結を呼びかける。

1. 4 マルクス主義の凋落

- * マルクスの予言は、必ずしも実現しなかった。
 - ・マルクスは、ドイツ、イギリスのような先進工業国を先頭に世界同時革命が起こり社会主義、共産主義社会に移行すると予想した。しかし、実際に革命が起こったのは、⁽⁸⁾)⁽⁹⁾)といった後発国や植民地だった。(→一国社会主義)
 - ・マルクスは、階級の二極分解(資本家/労働者)が進むと予想した。しかし実際には、膨大な⁽¹⁰⁾)が出現した。労働者は窮乏化せず富裕化した。
 - ・マルクスは、資本主義経済は利潤率が傾向的に低下し、不可避免的に崩壊すると予想し、恐慌(景気循環)はその前兆であると考えた。しかし、⁽¹¹⁾)経済学の出現によって、需要管理政策がとられるようになり、景気循環はコントロールできるようになった。また、科学技術の持続的な進歩によって、経済の拡大が続いている。

★質問は、随時受けつけます。挙手するか、紙に書いて教卓またはメール・ボックス(西4号館3階入り口)に提出、またはメールでお寄せ下さい。よい質問は加算します。

§ 2 マルクス主義はなぜ生まれたか

マルクス主義は、近代主義(modernism)に対するアンチテーゼとして生まれた。そこで、近代とは何だったかを、よく理解しておく必要がある。

2. 1 近代の正統思想とは何だったか

- * 近代は、個人の⁽¹⁾)を最大限に尊重する。それは、共同体の伝統的な⁽²⁾)を重んずる中世封建社会に対するアンチテーゼであった。

乙

* 個人はばらばらであるので、その関係を定めるのが、⁽³⁾ である。
英国の思想家⁽⁴⁾ は、⁽³⁾ のない自然状態において、人びとは「万人の万人に対する闘争」を繰り広げるとした。そこで人びとは、⁽³⁾ を結び、国家権力を設立する。国家権力は、人びとの安全・私有財産・権利を保証する。この考えは、ロック、ルソーの⁽⁵⁾ 説へと受け継がれた。

* 近代国家は、人びとの利益のためにあるから、人びとに不利益を与えてはならない。そのため、近代では、個人が⁽⁶⁾ をそなえており、国家はそれを奪うことができないと考える。⁽⁶⁾ はふつうの権利と異なり、一般の法律（実定法）によって制定されたものではなく、⁽⁷⁾ 法にもとづく。

cf) トマス・アクィナスは『神学大全』で、法律を、神の法／自然の法／国王の法に区分した。

* 近代国家は、すべて法律にもとづいて行動する。この原則を、「法の⁽⁸⁾ ）」という。法に従って行動する人びと（権利の主体）を、⁽⁹⁾ ）」という。近代社会の⁽⁹⁾ はみずから法を創造し、その法に従う。

Q2-1 江戸の町人は、⁽⁹⁾ ）」だったか？

* 近代社会では、契約が、社会関係の基本である。個人は、任意に契約を結んでよい。経済活動（売買）や株式会社をはじめとする近代組織の設立などはすべて、契約にもとづく。

cf) 契約によらない関係の例

- ・不法行為は、本人の意思によらず、他の個人と法律的な関係（権利義務関係）が発生する。
- ・出生は、本人の意思によらず、他の個人との親族関係（権利義務関係）を生じさせる。

2. 2 マルクス主義は、どこが近代の正統思想に対するアンチテーゼなのか

* 近代の正統思想は、社会の成立の出発点に、社会契約があったとするが、その証拠がないとマルクスは考える。むしろそれは、私有財産権を正当化するための、でっちあげ（イデオロギー）だとする。

* 契約（合意）が成立していないのだから、近代の資本主義社会は、⁽⁴⁾ が描いたような闘争状態、すなわち⁽¹⁰⁾ の舞台にほかならない。

* この状態を克服して、人類社会をあるべき社会、すなわちコミュンに再組織するために、⁽¹¹⁾ が必要である。⁽¹¹⁾ によって、人類の闘争状態に終止符が打たれ、人類社会が完成する。

* 初期の資本主義社会は、貧しい賃労働者を大量に生み出したので、それをなんとか救済しようと、多くの社会主義思想家が生まれた。彼らは、資本主義社会と別なところに、理想のコミュンを作ろうとしたり（ロバート・オーウェン）、資産階級の寄付を基金に理想のコミュンを建設しようとして（フーリエ）した。マルクス、エンゲルスは、彼らを、空想的社会主義として批判する。そして自らを、⁽¹²⁾ ）」と称した。

マルクス主義は、近代の正統思想に反対するが、その骨格はやはり近代思想にもとづいている、と言えよう。

§ 3 マルクスの思想

3. 1 マルクスは、どんな生涯を送ったか

* マルクス（Karl Marx 1818-1883）：哲学者、経済学者、思想家。マルクス主義の祖。

1818.5.5 プロイセン（今のドイツ）に生まれる。両親ともにユダヤ人。

1835 ボン大学法学部入学

1836 姉の友人イエニーと婚約

1839 ヘーゲル左派のフォイエルバッハらと知り合う。

1841 イェーナ大学から哲学博士号を受ける。学位論文「デモクリットとエピクルスの自然哲学の差異」

1842 大学講師の道をあきらめ、『ライン新聞』編集長に就任。

1844 『独仏年誌』に「ユダヤ人問題によせて」などを発表。「経済学・哲学草稿」を執筆。

1845 エンゲルス（Friedrich Engels）と協力関係を結ぶ。「フォイエルバッハ・テーゼ」「ドイツ・イデオロギー」を執筆。

1848 『共産党宣言』（共産主義者同盟・綱領）発表。

1849 ロンドンに移住する。生活難のなか、経済学の研究を進める。

1859 『経済学批判』第一分冊の原稿完成。

1867 『資本論』第1巻刊行（初版1000部）

1883.1.11 ロンドンで病死。

1885 『資本論』第2巻、エンゲルスの編集によって刊行。

1894 『資本論』第3巻、エンゲルスの「序文」をつけて刊行。

* マルクスは、

- ・⁽¹⁾ ）」人に対する差別と偏見を意識しながら、思想を形成した。
- ・当時の先進哲学であった、⁽²⁾ ）」の哲学に最も深い影響を受けた。
- ・当時の最先端科学であった、⁽³⁾ ）」経済学（スミス、リカルド）を徹底的に学んだ。
- ・革命家を志して失敗し、⁽⁴⁾ ）」に亡命、執筆に専念した。

3. 2 弁証法とは何か

* 弁証法（dialektik）…簡単に言えば、対話のこと。自分の主張に対して、相手が反論を寄せ、討論を通じて高度な結論に至る。～ソクラテス

* ヘーゲル（Georg Wilhelm Friedrich Hegel 1770-1831）：ドイツの哲学者・思想家
ヘーゲルの弁証法は、キリスト教の神学を下敷きにしたもの。キリスト教の三位一体説は、父なる神－子なるキリスト－聖霊を、3つのペルソナをもつ1つの実体と考える。ヘーゲルはこれを、即自的な存在（an sich）－向自的な存在（für sich）－即かつ向自的な存在（an und für sich）、への運動だと解釈した。

注）即自的を自体的、向自的を対自的、などともいう。

ヘーゲルの主著：『精神現象学』『エンツュクロペディー』

* キリスト教にはもともと、偶像崇拜（物神崇拜）禁止の考え方があった。偶像は、人びとが、自分がよいと考える本質（偉いもの、美しいもの、……）を、物体のなかに外化したもの。それを拝むことは、自分を拝むことである（ゆえに禁止）。偶像崇拜

を禁止することと、唯一神を礼拝すべきこととは、同義である。

* ヘーゲルの影響を受けたフォイエルバッハ (L. Feuerbach 1804-1872) は、この考えをキリスト教自身にあてはめ、神は「疎外された人間の本質」であるとして、宗教を批判した。マルクスはフォイエルバッハのこの論法（弁証法による批判）を踏襲した。

3. 3 初期マルクスは、どんなことを考えたか

* 『経済学・哲学草稿（経哲草稿）』（1844）

……この書物で、マルクスは、ヘーゲル哲学の弁証法と、英国古典派の経済学とをミックスし、資本主義社会を批判する立場を固めた。

Marx, Karl 1844 "konomisch-philosophische Manuskripte aus dem Jahre 1844" →1973 Karl Marx Friedrich Engels Werke Erg nzungsband Erster Teil :465-588. Dietz Verlag.

Marx, Karl 1844 →1975 "Economic and Philosophical Manuscripts(1844)" Early Writings, Penguin Books.

マルクス著・城塚登・田中吉六訳 1964 『経済学・哲学草稿』岩波文庫。

* ここで登場する重要な概念……弁証法、類的存在（類的本質）、労働、生産、再生産、疎外、賃労働、分業、私有財産

（引用3.3.1）

「労働者は、彼が富をより多く生産すればするほど、彼の生産の力と範囲とがより増大すればするほど、それだけますます貧しくなる。労働者は商品をより多くつくればつくるほど、それだけますます彼はより安価な商品となる。事物世界の価値増大にぴったり比例して、人間世界の価値低下がひどくなる。労働はたんに商品を生産するのではない。労働は自分自身と労働者とを商品として生産する。しかもそれらを、労働が一般に商品を生産するのと同じ関係のなかで生産するのである。

さらにこの事実は、労働が生産する対象、つまり労働の生産物が、ひとつの疎遠な存在として、生産者から独立した力として、労働に対立するということを表現するものにほかならない。労働の生産物は、対象のなかに固定化された、事物化された労働であり、労働の対象化である。労働の実現は労働の対象化である。国民経済的狀態のなかでは、労働のこの実現が労働者の現実性剥奪として現われ、対象化が対象の喪失および対象への隷属として、（対象の）獲得が疎外として、外化として現われる。」（訳86～87頁）

「このことは、宗教においても同様である。人間が神により多くのものを帰属させればさせるほど、それだけますます人間が自分自身のうちに保持するものは少なくなる。労働者は彼の生命を対象のなかへと注ぎこむ。しかし対象へ注ぎこまれた生命は、もはや彼のものでなく、対象のものである。したがって、この活動が大きくなればなるほど、労働者はますます多くの対象を喪失する。」（訳88頁）

（引用3.3.2）

「われわれは、二つの側面から実践的な人間活動の疎外の行為、すなわち労働を考察してきた。（1）労働者にたいして力をもつ疎遠な対象としての労働の生産物にたいする労働者の関係。この関係は同時に、彼に敵対的に対立する疎遠な世界としての感性的外界ないし自然的諸対象にたいする関係である。（2）労働の内部における生産行為にたいする労働者の関係。この関係は、労働者に属していない疎遠な活動としての彼自身の活動にたい

する労働者の関係である。……上に（（1）において）のべたのが事物の疎外であるのにたいし、これは自己疎外である。

さてわれわれは、これまでにのべた二つの規定から、疎外された労働の第三の規定を引きださなければならない。

人間は一つの類的存在（Gattungswesen）である。……

類生活は、人間においても動物においても、物質的にはまずなにより、人間が（動物と同様に）非有機的自然によって生活するということを内容とする。……人間の普遍性は、実践的にはまさに、自然が（1）直接的な生活手段である限りにおいて、また自然が（2）人間の生命活動の素材と対象と道具であるその範囲において、全自然を彼の非有機的肉体とするという普遍性のなかに現われる。自然、すなわち、それ自体が人間の肉体でない限りでの自然は、人間の非有機的な身体である。人間が自然によって生きることは、すなわち、自然は、人間が死なないためには、それとの不断の（交流）過程のなかにとどまらねばならないところの、人間の身体であるということなのである。……

疎外された労働は人間から、（1）自然を疎外し、（2）自己自身を、人間に特有の活動的機能を、人間の生命活動を、疎外することによって、それは人間から類を疎外する。すなわち、それは人間にとって類生活を、個人生活の手段とならせるのである。……

……

それゆえ人間は、まさに対象的世界の加工において、はじめて現実的に一つの類的存在として確認されることになる。この生産が人間の制作的活動な類生活なのである。この生産を通じて自然は、人間の制作物および人間の現実性として現われる。それゆえ労働の対象は、人間の類生活の対象化である。

……

こうして疎外された労働は、

（3）人間の類的存在を、すなわち自然をも人間の精神的な類的能力をも、彼にとって疎遠な本質とし、彼の個人的生活の手段としてしまう。疎外された労働は、人間から彼自身の身体を、同様に彼の外にある自然を、また彼の精神的本質を、要するに彼の人間の本質を疎外する。

（4）人間が彼の労働の生産物から、彼の生命活動から、彼の類的存在から、疎外されている、ということから生じる直接の帰結の一つは、人間からの人間の疎外である。人間が自分自身と対立する場合、他の人間が彼と対立しているのである。」（93～98頁）

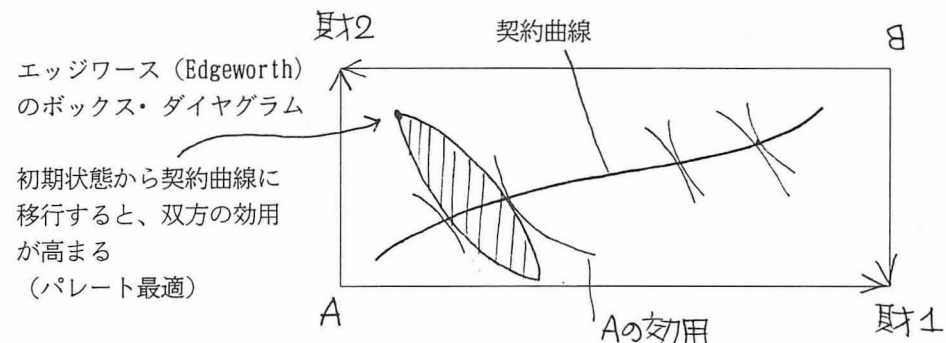
* 類（Gattung）とは、生物学でいう種のようなものである。ヘーゲルのテキストをみると、類生活は、交尾（Begattung）と関連づけられている。人間は、社会的動物であるという意味だと解釈できる。

* 生産……人間が外界（自然）に働きかけて、事物を加工し、自分の生存に役立てる行為。

* 再生産……人間が自らを産みだす行為。また、労働者が自らの消耗を回復して労働を継続できるようにする行為。。また、資本が損耗を補填して生産を継続できるようにする行為。

* 分業…… A・スミスは、分業が生産の効率を高めると考えた（Smithonian division of labour）。 いっぽう、社会学者のデュルケームは、分業が社会的連帯を高めると考えた（Durkheimian division of labour）。

分業の結果、交換が生ずる（次ページのボックス・ダイアグラム）。



(引用3.3.3)

「労働の生産物が労働者に属さず、疎遠な力として彼に対立しているならば、そのことはただ、この生産物が労働者以外の他の人間に属するということによってのみ、可能である。」(訳 100頁)

「それゆえ私有財産は、外化された労働、すなわち外化された人間、疎外された労働、疎外された生活、疎外された人間といった概念から、分析を通じて明らかにされるのである。」(訳 102頁)

* マルクス・エンゲルスは、分業が私有財産をうみだし、私有財産が階級をうみだし、階級対立が国家権力をうみだすと考えた。

したがって、階級対立をなくし、国家を廃絶するには、私有財産を廃棄しなければならない。すなわち、共産主義である。

* 逆に言えば、人類社会の出発点には、まだ私有財産も階級分化もなかった段階を考えなければならない。これが、(5) である。歴史は、(5) → 古代の(6) → 中世の(7) → 近世の(8) → ブルジョワ市民革命 → 近代の資本主義社会 → プロレタリア革命 → 共産主義社会、へと進むと考えられた。

* この歴史の原動力は、(9) と(10) との矛盾である。前者は、下部構造とも呼ばれ、人間社会の根底をかたちづくる経済活動のこと。後者は上部構造とも呼ばれ、政治・法・文化を含む広い領域を意味する。

3. 4 なぜ、“万国のプロレタリアは団結”しないといけないのか

* 『共産党宣言』(共産主義者宣言)(1848)

……この書物で、マルクスは、世界同時の暴力革命によって資本社会を転覆し、労働者の独裁によって私有財産制を廃絶、共産主義社会に移行するプログラムを示した。

Marx, Karl; Engels, Friedrich 1948 Manifest der Kommunistischen Partei, →1969 Reclam.

Marx, Karl; Engels, Friedrich 1948 =1888→1985 The Communist Manifesto, Penguin Classics.

マルクス・エンゲルス著 大内兵衛・向坂逸郎訳 1951 『共産党宣言』岩波文庫。

* ここで登場する重要な概念……ブルジョワジー、階級闘争、前衛党、革命、プロレタリア国際主義

(引用3.4.1)

「ヨーロッパに幽霊がでる——共産主義という幽霊である。」(訳37頁)

(引用3.4.2)

「今日まであらゆる社会の歴史は、階級闘争の歴史である。」(訳38頁)

「われわれの時代、すなわちブルジョワ階級の時代は、階級対立を単純にしたという特徴をもっている。全社会は、敵対する二大陣営、たがいに直接に対立する二大階級——ブルジョワ階級とプロレタリア階級に、だんだんと分かれていく。」(訳40頁)

「しかしブルジョワ階級は、みずから死をもたらす武器をきたえてきたばかりではない。かれらはまた、この武器を使う人々をも作り出した——近代的労働者、プロレタリアを。」

ブルジョワ階級が、すなわち資本が発展するにつれて、同じだけプロレタリア階級、すなわち近代労働者の階級も発展する。かれらは、労働を見出すあいだけ生き、かれらの労働が資本を増殖するあいだけ労働を見出す。この労働者は、自分の身を切り売りしなければならぬのであるから、他のすべての売りものと同じく一つの商品であり、したがって、一様に競争のあらゆる変転に、市場のあらゆる同様にさらされている。」(訳48頁)

* プロレタリア……古代ローマの奴隷の一種。最下層の奴隷は結婚を許されず、酷使され使い捨てられたが、これは結局高くつく。そこで下から二番目のプロレタリアは、結婚を許され、生まれた子供が将来の奴隷となることで、自らの階級を再生産した。

* ブルジョワ……もとは、都市の市民の意味。有産階級(資本家階級)を意味する。

(引用3.4.3)

「ブルジョワ階級の存在と支配にとってもっとも本質的な条件は、私人の手中への富の集積、すなわち資本の形成と増殖である。資本の条件は賃金労働である。賃金労働はもっぱら労働者相互のあいだの競争にもとづく。工業の進歩の無意志無抵抗な担い手はブルジョワ階級であるが、この進歩は、競争による労働者の孤立化の代わりに、結合による労働者の革命的団結を作り出す。だから、大工業の発展とともに、ブルジョワ階級の足もとから、かれらに生産させ、また生産物を取得こさせていた土台そのものが取り去られる。かれらは何よりも、かれら自身の墓掘人を生産する。かれらの没落とプロレタリア階級の勝利は、ともに不可避である。」(訳56頁)

(引用3.4.4)

「共産主義者は、他のプロレタリア党から、つぎのことによって区別されるにすぎない。すなわち、一方では、共産主義者は、プロレタリアの種々な国民的闘争において、国籍とは無関係な、共通の、プロレタリア階級全体の利益を強調し、それを貫徹する。他方では、共産主義者は、プロレタリア階級とブルジョワ階級のあいだの闘争が経過する種々の発展段階において、つねに運動全体の利益を代表する。」(訳57頁)

(引用3.4.5)

「共産主義者は、自分の見解や意図を秘密にすることを軽蔑する。共産主義者は、これまでのいっさいの社会秩序を暴力的に転覆することによってのみ自己の目的が達成される

ことを公然と宣言する。支配階級よ、共産主義革命のまえにおののくがいい。プロレタリアは、革命において鎖のほか失うべきものをもたない。かれらが獲得するものは世界である。

万国のプロレタリア団結せよ！」（訳87頁）

§ 4 マルクスの経済学

4. 1 労働価値説

*『資本論』（1867）

……この書物で、マルクスは、資本主義経済のメカニズムを解明し、生産力の発展につれてこのシステムが、内部矛盾のため崩壊するであろうことを論証した。

Marx, Karl 1867 Das Kapital (Erster Band) → 1947 Dietz Verlag.

Marx, Karl 1867 → 1976 Capital (Volume 1), Penguin Books.

マルクス・エンゲルス 鈴木鴻一郎訳 1980『資本論』（中公バックス世界の名著 54, 55）、中央公論社。

ここで登場する重要な概念……資本家的生産様式、商品、使用価値、交換価値（あるいは単に、価値）、生産手段、利潤、剰余価値

（引用4.1.1）

「資本家的生産様式が支配的である社会の富は、個々の商品がその要素となった“商品の膨大な集積”として現象する。それゆえ、われわれの研究は、商品の分析から始まらなければならない。」（ディーツ版47頁・橋爪訳）

注）マルクス自身は「資本主義」という言葉を使っていない。

「資本家的生産様式（kapitalistische Produktionsweise）」が、『資本論』での正式な用語である。

* マルクスの価値論を簡単にまとめると、以下のようである。

- 1) すべての商品は、⁽¹⁾ (Gebrauchswert) と ⁽²⁾ (Tauschwert) とをもつ。前者は個人的・主観的なものだが、後者は客観的なものである。
- 2) 商品が交換されるのは、その ⁽²⁾ が等価だからである。多くの商品が交換されているうちに、ある商品が、一般的等価形態（価値の尺度のようなもの）として現れてくる。
- 3) 一般的等価形態である商品は、それ自体に価値がうるようになり、人びとに思われはじめる結果、⁽³⁾ (Geld) に転化する。

* マルクスは、こうした商品の価値の正体はなにかと考え、アダム・スミス、D・リカルドにならって、労働であると考えた。→ ⁽⁵⁾

〔ちょっと寄り道〕

* 価値論の系譜をふりかえると、最初に登場したのは、⁽⁴⁾ 説である。

これは、有用なものは値段が高く、有用でないものは値段が低いとするもの。しかしこの説は、水のようにきわめて有用なものがただ同然であり、ダイヤモンドのように用途のないものが高価であるという反例があるため、説得力を持たなかった。

そこで登場したのが、⁽⁵⁾ 説である。この学説は、商品を生産するのに要した労働の量が、その商品の価値であると考えた。

いっぽう、⁽⁴⁾ を改良して現れたのが、⁽⁶⁾ 説である。この学説は、商品の全体効用ではなく ⁽⁶⁾ に比例して商品の価格が決まると考え、さきほどの反例を解消している。ワルラス、メンガー、ジェボンズの3人が独立にこの学説を唱え、今日の近代経済学の源流をかたちづかった。

* 経済学では一般に、商品の生産に必要な生産要素を、三つに大別する。

- 1) ⁽⁷⁾ ……それ自身、生産された商品で、再び生産過程に投入される。
- 2) ⁽⁸⁾ ……その社会の経済システムでは生産できない自然の事物。
- 3) ⁽⁹⁾ ……労働者の活動。

このおのおのに対して、利子、地代、賃金が支払われる。

* ⁽⁷⁾ ~ ⁽⁹⁾ のうち、その社会の経済で生産できないという意味で、本源的な生産要素は、後二者であり、そのうち本当の意味で価値を生み出すのは ⁽⁹⁾ だけである、とマルクスは考えた。

4. 2 資本とは何か

* しかし実際には、資本が価値（利子）を生み出すように見える。

マルクスは、市場における交換、ならびに資本の運動を、つぎのように分類した。

$$\begin{array}{ll} W - W' : & ^{(10)} \\ W - G - W' : & ^{(11)} \\ G - W - G' = G + \Delta G : & ^{(12)} \\ G - G' = G + \Delta G : & ^{(13)} \\ G - W - W' - G' = G + \Delta G : & ^{(14)} \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \\ \\ \\ \\ \end{array} \right\} \text{利子産み資本}$$

ただしここで、Wは ⁽¹⁵⁾ を、Gは ⁽¹⁶⁾ を表す。

資本の本質は、 $G \rightarrow G' (= G + \Delta G)$ なる、価値増殖運動にある。

* このうち ⁽¹⁴⁾ の価値増殖メカニズムを、マルクスはもう少し詳しく、つぎのように分析する。

$$G - W \begin{cases} Pm \\ A \end{cases} \cdots \cdots W' - G' \quad \begin{array}{l} \text{ただし、} \\ Pm : \text{生産手段 Produktionsmittel} \\ A : \text{労働力 Arbeitskraft} \end{array}$$

この過程で、なにゆえ、価値増殖が生じるのか？

⁽¹²⁾ の場合は、空間的または時間的に異なる市場での価格体系の差異が、利潤の源泉であった。その本質は投機であり、しかも、その結果、価格体系の差異は徐々に縮小していく（その結果、利潤の源泉そのものが消滅する）という、自己否定的な活

動であった。

(¹³) の場合は、直接の搾取が、利潤の源泉であった。貸し手の利潤は、借り手の損失である。その結果、社会の富は増大しない(価値増殖は起こらない)。

(¹⁴) の場合はそれに対して、商品の売買は、同じ市場の同じ価格体系のなかで行なわれている。 $G - W$ も、 $W' - G'$ も等価交換であって、その取引自体には利潤の生じる余地がない。したがって、価値増殖が生じるとすれば、それは生産過程(図中の……の部分)においてであるしかない。商品Wが、商品W' に変形するあいだに、価値の増殖が生じている。

* マルクスは、この価値増殖の秘密を、(¹⁷) の価値と(¹⁸) の価値との差に見出した。

前者は、労働がどれだけの価値を生み出すかという、労働力の使用価値であり、後者は、労働がどれだけの費用(賃金)によって再生産されるかという労働力の交換価値である。資本家は、労働者に賃金を払っても、労働者の労働を使用すればそれ以上の価値を生み出すことができるので、利潤を手にする。

労働力の使用価値 - 労働力の価値 = (¹⁹)
(労働の産み出す価値) (再生産費用)

* (¹⁹) は、生産手段の所有者である資本家に帰属する。それを労働者の労働が産み出したにも関わらず、労働者には帰属しない。これが資本家による労働者の(²⁰) である。

4. 3 なぜ、資本主義社会は解体するのか?

* 資本は、生産手段 = (²¹) と、労働力 = (²²) とによって構成される。技術が進歩し、資本が蓄積され、生産力が拡大すると、不変資本が相対的に増大し、可変資本が相対的に減少する。これを、資本の有機的構成が変化するという。この結果、元の資本に対して、利潤を生み出す労働力の占める割合は、徐々に低下していく。したがって、資本が剰余価値を生み出す割合も、資本家の手にできる利潤も、徐々に少なくなっていく。そしてついには、限りなくゼロに近くなる。こうして、あせった資本家は、労働者の賃金をますます切り詰め、生存水準以下に低めようとする。労働者はこれに反抗して立ち上がり、資本家と私有財産制度を否定する暴力革命がおこる、というのが、マルクスの描いたシナリオだった。

[産業予備軍説]

* 労働者の賃金が、生存ぎりぎりの最低水準に維持されるメカニズムを、マルクスはこう考えた。

技術革新が起こり、生産力が拡大する結果、同じ商品を、以前よりも少ない労働で生産できるようになる。この結果、不用となった労働者は解雇され、失業者となる。彼ら(産業予備軍)が、どんなに安い賃金でも就職しようとして町にあふれていて、労働力が供給過剰となるため、賃金の相場はこれ以上下がれないところ、つまり生存水準に維持される。

[資本主義経済とは何か]

- * 資本主義経済の特徴は、一般の商品の市場に加えて、生産要素の市場——資本市場、土地市場、労働市場——が成立していることである。なかでも、労働市場が成立していることが、根本的である。
- * 近代資本主義社会の不可欠の構成要素として、しばしばつぎのものがあげられる。
 - ・ 科学技術……合理的な予測にもとづいて、生産過程をコントロールする。
 - ・ (²³) ……借方/貸方を照合しつつ、資本の利益率を合理的に表示する。
 - ・ 官僚制度……文書、権限と責任の原則にもとづき、形式合理的に組織を運営する。
 - ・ (²⁴) ……商業銀行が当座預金によって信用を創造し供与する。

§ 5 『資本論』の数学的構造

5. 1 マルクス経済学と近代経済学

- * 労働価値説をとり『資本論』を原典とするマルクス経済学と、限界革命(marginal revolution)以後の近代経済学とは、その前提が異なるため、互いに非難を応酬した。労働価値説に対する批判としては、「単なる循環論法にすぎない」とする、ベーム・バヴェルクの批判が有名である。限界効用学説に対する批判としては、「効用関数など観察できない(存在する保証がない)」とする批判が代表的である。
- * マルクス経済学と近代経済学の関係がどのようなものであるかは、長いあいだはっきりしなかった。サミュエルソンも1960年代~70年代にかけて、論文をいくつか書いたが、はっきり決着をうけるには至らなかった。
- * 森嶋通夫氏が『マルクスの経済学』を著すにおよび、『資本論』を完全に近代経済学のモデルで表現し、解明できることが明らかになった。

Morishima, Michio 1973 *Marx's Economics: A Dual Theory of Value and Growth*, Cambridge University Press. = 1974 高須賀義博訳『マルクスの経済学——価値と成長の二重の理論——』東洋経済新報社。

5. 2 産業連関論

- * 近代経済学で、『資本論』のモデルを表現する前提となるのは、産業連関論である。この理論は、W・レオンチェフが始めた、投入産出分析(Input/Output analysis)が基本になっている。
- * レオンチェフ・モデルは、つぎの前提をおく。
 - 1) (非結合生産) ……どの産業も、1種類の財のみを生産する。(結合生産や副産物(ゴミなど)はない。)
 - 2) (固定投入係数) ……どの産業でも、1単位の財を生産するのに必要な生産要素の割合は一定である。(このため、モデルは線型となる。)

* レオンチェフ・モデルは、n種の産業の(粗)生産量をn個の未知数とする、n本の連立方程式であるから、それ以外のパラメータ(最終需要=純生産量)が与えられれば、原理的に解ける。

★Q 5-1 2種(または3種)の産業からなる経済を考え、適当な数値を与えて、レオンチェフ・モデルをつくり、解いてみよう。

5. 3 『資本論』の数学的構造

* 別に配布したプリント「マルクスの経済学」にそって、授業を進める。

* 『資本論』の数学的構造についての、まとめ

- 1) 『資本論』の内容は、産業連関論のレオンチェフ・モデルをベースに表現できる。
- 2) 価値は、特定の前提のもとで定義でき、説明力をもつような仮説構成体である（実体ではない）。
- 3) 搾取は、個々の資本家・対・労働者の関係ではなくて、経済システム全体が不可避に帯びる構造的な効果である。資本家は、利潤をあげ企業を存続させようとする限り、労働者を搾取するほかはない。

★Q 5-2 プリント「マルクスの経済学」のうち、任意の証明を詳しくフォローし、その各行が意味するところもなるべく説明せよ。（任意レポート課題）

§ 6 マルクス・レーニン主義と共産党

6. 1 マルクス以後の共産主義

* マルクスの正統を受け継ぐのは、ドイツの共産主義運動（社会民主党）のはずであった。しかし、同党は、カウツキーの⁽¹⁾（＝マルクスののべたことが一字一句正しいと考える立場）、ベルンシュタインの⁽²⁾（＝現実にあわせてマルクスの主張を変更してよいという立場）に分かれて争い、革命も起こせなかった。

それに代わって、今世紀の初頭に革命政権の樹立に成功し、国際共産主義運動を指導する権威を獲得したのが、ロシアのレーニンである。

* レーニンが継承したマルクス主義を、⁽³⁾という。（それに対して、西ヨーロッパ独自のマルクス主義を、⁽⁴⁾という。）

6. 2 レーニンとロシア革命

* レーニン（Vladimir Il'ich Lenin 1870-1924）：ロシアの革命家、政治家。ボルシェビキ党を組織し、ロシア革命を指導する。

『唯物論と経験批判論』（1908）……物理学者E・マッハの学説に対抗、唯物論の優位を説く。

『帝国主義論』（1916）……資本主義は、新しい市場と利潤を求めて植民地を争奪しあい、世界戦争をひきおこす。その機会に革命を。

『国家と革命』（1917）……国家は階級弾圧のための暴力装置である。団結した労働者の銃口から政権が生まれる。

* レーニンは、秘密警察の弾圧に対抗するため、秘密警察にそっくりの地下組織（共産党）をつくりあげた。その組織原則を、⁽⁵⁾という。だがその実、「民主」の部分は形ばかりで、「集中」すなわち上部の権威が絶対であった。

* 共産党は、階級闘争を指導する国際的な機関である。なにが真理であるかを決定する権威をもち、いつが革命的情勢であるかを判断する。共産党の判断は絶対である。共

産党の指令に従わず、革命的情勢なのに行動を起こさなければ、⁽⁶⁾である。逆に、革命的情勢でないのに行動を起こせば、⁽⁷⁾と言われる。共産党は、法皇と同じく、不可謬なのである。

* ロシア共産党は、ソビエト（細胞のようなもの）を単位に作られた。ロシアは、産業化が十分に進んでいなかったのも、労働者のソビエトに加えて、農民のソビエトも多くあり、労農ソビエト（労働者と農民が同盟する革命）というかたちをとった。ソ連の国旗（鎌と槌）がそれを表している。

* 軍事力を政権の基盤とするソ連は、軍隊（赤軍）のなかに共産党の⁽⁸⁾をくまなく配置した。作戦命令は、司令官の署名に加え、⁽⁸⁾の副署がないと、効力をもたない。このシステムは、中国共産党や、国民党にも共通している。共産党の政権が軍事クーデターによって覆った例はない。

* レーニンの死後、目立たなくて有能でないとされた⁽⁹⁾が後継者に指名された。しかし、⁽⁹⁾は実権を握ると、反対派をつぎつぎ粛清し、絶対的な権力を握った。

Q 6-1 もしもあなたが、当時の共産党の知識人で、ある問題について党が間違っていると確信したら、どのように行動することができるか？

6. 3 ソビエト連邦と社会主義経済

* 共産党は、政権を確立するとまず私有財産・企業の没収をはかったが、経済が混乱したので商品経済を復活する（ネップ政策）など、試行錯誤を繰り返す。そしてスターリンが五ヶ年計画を成功させると、急速に成長しはじめ、⁽¹⁰⁾の体制を確立した。

* なぜソ連の重工業は急速に発展したか。それは、農村を徹底的に搾取して、資源をどしどし工業部門に投入した点にある。農民は有無を言わず、集団農場や国営農場に押し込まれ、文句を言うと粛清されたり、シベリアに送られたりした。このため、数百万人が死亡したと言われる。作家⁽¹¹⁾の『収容所列島』は、こうした事情をよく描いている。

* この結果、ロシアの農民は無気力となり、農業生産はのび悩む。これがのちに、ソビエト経済のアキレス腱となった。

6. 4 共産主義インターナショナル

* 国際的な権威を確立したロシア共産党は、共産主義インターナショナル（コミンテルン）を設立して、国際共産主義運動の指導に乗り出した。このインターナショナルは歴史上、三番目の試みだということで、⁽¹²⁾とよぶ。ドイツでは1921年、コミンテルンの指導のもとに武装蜂起をはかったが失敗し、組織が壊滅した。それ以後、ソ連共産党が実質的に世界革命の司令塔となる。

* コミンテルンは、各国にオルグ（オルガナイザーの略）を派遣して、インターナショナルの支部（各国共産党）を設立した。日本共産党（1922-）も、中国共産党（1921-）も、元はと言えば、こうして設立された支部である。

* 当時のコミンテルンは、各国の実情を無視して、勝手な指導をした。中国共産党は、ソ連の指導を受け都市で運動しているあいだはちっともうまく行かず、壊滅一步手前に追い込まれた。そこで毛沢東を指導者に選び、農村を基盤に運動するようになってやっと息を吹き返した。日本共産党には、「32年テーゼ」が与えられて、日本は地

* 戦後、活動を再開した日本共産党は、占領軍と良好な関係にあったが、米ソ対立が激しくなる兆しをみせたため、⁽³⁾) の対象となり、反米・反政府運動に転換した。その後、火炎ビン闘争や山村工作隊などの過激路線をへて、50年代のなかばに穏健路線に転換する(六全協)。それに不満をもつ若手の党員がとび出したり除名されたりして、新しい組織をつぎつぎに旗揚げした。これらを⁽⁴⁾) と総称する。

9. 2 新左翼

* 60年安保の際、革命を目指して全学連(主流派)を指導したのが、⁽⁵⁾) (共産主義者同盟の略。安保ブントという)である。いわば素人の集団であったため安保闘争が失敗すると、分裂し、小さな組織に分かれた。マル戦派、関西派、赤軍派、ML派(毛沢東思想派)など、数え切れない。

* ⁽⁵⁾) ではだめだ、もっと革命的な組織をつくろう、と結成されたのが、⁽⁶⁾) (略して革共同)である。これはすぐさま、路線対立を起こして⁽⁷⁾) 派と⁽⁸⁾) 派に分裂する。

* このほかに、第4インターを名乗るグループ、社会党の下部組織・社会主義青年同盟(社青同)の解放派、協会派、構造改革派、などがある。これらは学生運動の主導権をめぐる離合集散を繰り返し、ついには内ゲバ殺人の応酬に発展して、急速に人びとの支持を失っていった。

§ 10 マルクス主義から何を受け継ぐか

* マルクス主義は、20世紀の現実と合致しないことから、権威を失墜した。しかし、マルクス主義にかわる体系的で科学的で総合的な思想体系は、まだ生まれていない。困難を増す地球環境問題、ますます広がる南北格差など、マルクス主義の問題意識が活かされるべき現実は、まだまだ広がっている。

★Q10-1 マルクス主義からなにを受け継ぐか(受け継がないか)を考えてみよう。

★Q10-2 1月20日は、講義の最終回なので、残った時間を使って「質問大会」を行ないます。どんな質問でもよいので、ノートに思いついた質問をまとめておいて下さい。小さな紙に質問と学籍番号・名前を書いて提出すれば、加点します。

解答例

§ 1 社会主義 自由放任にまかせず国家が介入し、再配分をはかる政策の総称
共産主義 私有財産制を廃止して、階級のない共同社会の実現をめざす運動
マルクス主義 共産主義のうち、マルクスの思想にもとづくもの

1 史的唯物論 (または唯物史観)	7 封建制(社会)	5 民主集中制
2 階級闘争	8 絶対王制	6 右翼日和見主義
3 『資本論』	9 生産力	7 左翼小児病
4 搾取	10 生産関係	8 政治委員
5 疎外	§ 4	9 スターリン
6 『共産党宣言』 (共産主義者宣言)	1 使用価値	10 社会主義計画経済
7 プロレタリア (無産階級)	2 交換価値	11 ソルジェニーツィン
8 ロシア(ソ連)	3 貨幣	12 第三インター
9 中国	4 (素朴)効用	13 二段階革命
10 中流階級	5 労働価値	14 自由貿易
11 ケインズ	6 限界効用	§ 7
	7 資本	1 ノメンクラトゥーラ
	8 土地	§ 8
	9 労働	1 毛沢東思想
§ 2	10 物々交換	2 スターリン
1 自由	11 商品交換	3 中ソ論争
2 慣習	12 商業資本	4 自力更生
3 契約	13 金融資本 (高利貸資本)	5 大躍進
4 ホッブス	14 産業資本	6 劉少奇
5 社会契約	15 商品	7 文化大革命
6 基本的人権	16 貨幣	8 敵対的矛盾
7 自然	17 労働	9 請け負い
8 法の支配	18 労働力	10 天安門事件
9 (近代)市民	19 剰余価値	11 社会主義市場
10 階級闘争	20 搾取	12 市場経済
11 暴力革命 (共産主義革命)	21 不変資本	
12 科学的社会主義	22 可変資本	§ 9
	23 複式簿記	1 転向
§ 3	24 割引手形	2 宮本顕治
1 ユダヤ		3 レッド・パージ
2 ヘーゲル	§ 6	4 新左翼
3 英国古典派	1 教条主義	5 共産同
4 ロンドン(英国)	2 修正主義	6 革命的共産主義者同盟
5 原始共産制	3 マルクス・レーニン主義	7 革マル
6 奴隷制(社会)	4 ヨーロッパ・マルクス主義	8 中核

★試験 1月27日9:00～10:30

会場: W241(この教室)

問題……知識問題: 30点

論述問題: 90点

* 答案を採点したあと、希望者に返却します(3月1日以降)。

☆任意レポート 分量・タイトルは自由 締切りは、2月19日(金)。
試験の結果がかんばしくなかった人は、どしどし提出して下さい。

☆試験の当日、風邪などやむをえない事情で休んだ人は、橋爪に連絡して下さい。
(☎03-5734-2667 E-mail hashizm@valdes.titech.ac.jp)